

山行NO NO. 1730
日時 2017.03.18(土)～19(日)
山域 白馬乗鞍岳(2469m)滝見尾根～蓮華温泉～振子沢～天狗原～山の神尾根～白馬乗鞍スキー場
コース 1日目＝柵池自然公園駅発8:55－天狗原10:25－白馬乗鞍岳11:53－白馬大池
－滝見尾根－滑降開始12:55－蓮華温泉15:10(泊)
2日目＝蓮華温泉発7:00－振子沢－天狗原10:22－山の神尾根－滑降開始11:25
－黒川沢－堰堤－白馬乗鞍スキー場15:10
標高差 上り 柵池自然公園約1820m～白馬乗鞍岳2469m＝約649m
蓮華温泉約1465m～天狗原約2200m＝約735m
下り 白馬乗鞍岳2469m～蓮華温泉約1465m＝約1004m
天狗原約2200m～白馬乗鞍スキー場約742m＝約1458m
参加者 後藤、加藤

1日目

柵池自然公園駅から出発。やや風があるが快晴。登山者は多い。8割は山スキーヤー。この時、ゴンドラに乗っていたオジサンは、蓮華温泉に行くと言っていたが、結果的に来なかった。帰静して知ったが、この日、柵池でBC(バックカントリー)の60歳代の方が行方不明となった。どうも、この方ではないかと思った
天狗原に上る。今年は雪が多く樹木が殆ど出ていない。
何回も来ているが、こんな広大な雪原を見るのは初めて。雪が多い原因は雨が少ないからだ。



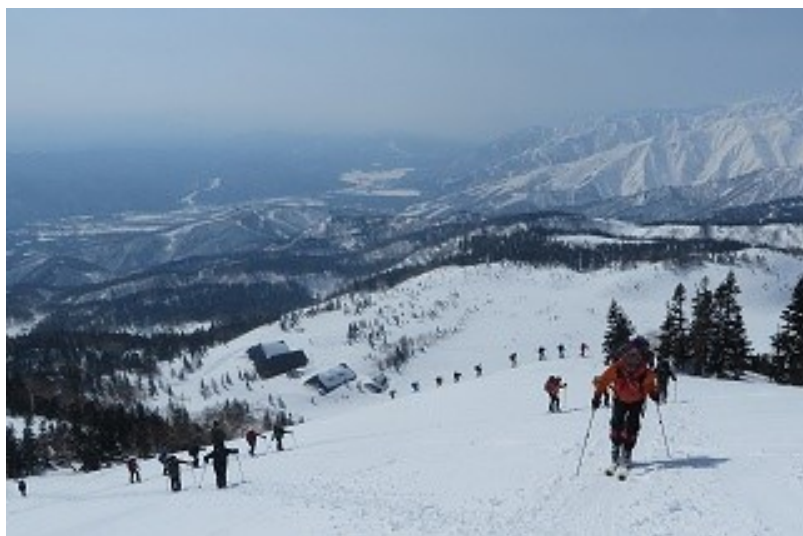
今期は少雨で積雪量が多い

天狗原から白馬乗鞍岳に向かう。先頭のルート作りが良く、今回は楽に上れた。
上って白馬大池に進む。この頃になると、あれ程多かった登山者が疎らになる。

一体、何処に行ったのだろうか。

白馬大池は、夏のイメージは全くない。ただ、真っ白な雪原が広がっている。

北側にある筈の小屋は何処にあるのか、一部も露出していない。



天狗原の上り・下に駅が見える



白馬乗鞍岳の登山者



白馬大池小屋は埋没していた

前回、2005年は乗鞍岳三角点より33m高い北の2469m峰から滑降だったが、今回は、白馬大池の北のコルまで行って滝見尾根に出た。しかし、コルからスッキリ滑れない。露岩地帯あり、ある程度歩きで下らないと駄目だった。



滝見尾根・滑降開始



真ん中は雪倉岳（2611m）



滑った所を振り返る



蓮華を俯瞰



2005年時

滑降開始。雨が少ないので、雪が締まっていない。グズグズの雪だ。
スキーは難しかった。また、2番手・3番手と後になるほど、雪面が
荒れ放題で、滑り難いことこのうえない。また、荷物が重く自由が利かない。
今回も装備はフル装備だった。

ピッケル・アイゼン・三種の神器（ビーコン・ゾンデ・スコップ）を持参。
他のスキーヤーを見れば皆、軽装だった。厳冬期でないので、ピッケル・アイゼンは
不要だろう。次回は割愛しよう。



今回の滑り



それでも下部は、2005年程ではないものの、まあまあ良かった。
ルートをうまく取り、上り返しなしで、蓮華温泉玄関にピッタリ到着。
小屋は連休で混んでいた。
少し飲んで温泉浴。ここの温泉は、熱からず温からずサイコーだった。
いただいた、ワインも美味しかった。



蓮華温泉



スキーマーチのオンパレード



夕食

2日目

朝、起きると雪が舞っていた。

朝食時間前だが、雪倉岳、朝日岳などに向かう人は、もう出かける支度をしていた。

朝食時間は、6時からだったが、我々はユックリいただいた。

7時小屋発。そのころには、雪は止んでいた。

林道を進む。前方にオジサンパーティーが6～7名いた。

木地屋に下るといった。最高齢は66歳とのこと。

天狗原のルートを知った。振子沢は、二つ目の橋を入ると教えてくれた。

ここは、2005年来で、兎に角「忘れていた（記憶に御座いません、だった）」

振子沢は、なだらかで上り易かった。後ろから3名来た。男性が2名、女性が1名。

昨日は、ここを滑ったそうだ。今日は、柵池スキー場を下るそうだ。

山の神尾根を勧めたが、その気持ちはなかった。途中で休憩中、抜いた。

上部に今日のトップパーティー、6～7名いた。彼らも、スキー場を下るといった。

仲間の女性が、脚を痛め無理は出来ないようだ。休憩中抜いて千国揚尾根に出た。



振子沢





振子沢上部



千国揚尾根上部の東邦航空のヘリポート



千国揚尾根は懐かしい尾根だった。ここは2007年に風吹大池経由でやったが、2月で下山が、蛍の光の18時という、厳しい山だった。天狗原に東邦航空のヘリポートがあった。昨日、ヘリに乗った方は、料金が「14000-」と話していた。歩けば2時間半だが、豪勢である。

天狗原から山の神尾根に向かうが、どうも記憶が曖昧でハッキリしない。Yと2009年やった以来だから無理もない。前方にスキーヤーが2名いたので、近づき聞いてみた。彼らは親沢を滑るが、「山の神尾根は、向こうの尾根（千国揚尾根）だ」といった。どうも、おかしい。GPSを注視した結果、山の神は、やっぱり真っ直ぐと判断し進む。

程なく、以前の記憶も甦り、少し安心した。小ピークの2072mまで歩きが多い。嫌になると、視線は親沢で、滑りたい衝動にかられる。しかし、よく見ると雪崩の痕跡があった。2072m峰を越えると、いよいよ滑降が始まる。後から6～7名来た。連中に女性もいたが、ウサギの様ガンガン滑って行った。当方は、荷物が重く、昨日の疲れもあり、さながら亀だった。



山の神尾根



それでも徐々に以前の記憶が戻り、徐々に高度を下げて行った。
しかし、午後の高温で雪はグズグズで、誠に滑り難く最悪。
遙か左手下に、白馬乗鞍スキー場が見えた。
見覚えのある急な壁を越えると、スキー場に続く黒川沢に入る。また、ここの雪が悪かった。
もっと快適な印象だったが・・・。

それでも、ようやくフィナーレを飾る、巨大な堰堤に着いた。
こ堰堤は、普通の密閉型でなく、中央は太いパイプで、人間が通れるくらいの空間が開いている。





以前は脇を通過したが、今回は雪が多く、パイプの間を通過出来そうだった。先行者のシュプールもそこで消えていた。

偵察をしようと沢に滑り込む。沢はやや暗く、雪はベッタリとあるような感じだった。

斜面をガーと滑って沢に降りようと思って、私は「アア～」を一瞬叫んだ。

何とそこは雪の斜面でなく、2m程えぐれた大きな流水溝だった。叫んでも既に遅かった。

スキーが対岸に刺さり、体は前方に投げ出された。倒れて怪我はないか確認。大きな痛みはなかった。

が、左ふくらはぎの自由が利かなかった。肉離れだった。

また、やってしまった。実は2004年、全く同じ黒川沢下部のこの堰堤手前で、同じように、右ふくらはぎ肉離れをやっている。どうも山の神尾根は、鬼門の様だ。でも、すぐ右に大きな雪割れがあり、危なかった。そこに落ちればヤバかった。

前傾は、ふくらはぎに負担が掛かるが、後傾ならスキーは出来る。堰堤から、だましまし、スキー場まで滑り、タクシーを呼んで終了。(柵池までタクシーは、1100円)

長いスキーだった。疲れ切ってしまった。前回の怪我は、即、白馬村の診療所に直行だったが、今回は、通院は必要なかった。日柄モノだから、時間が解決してくれるだろう。



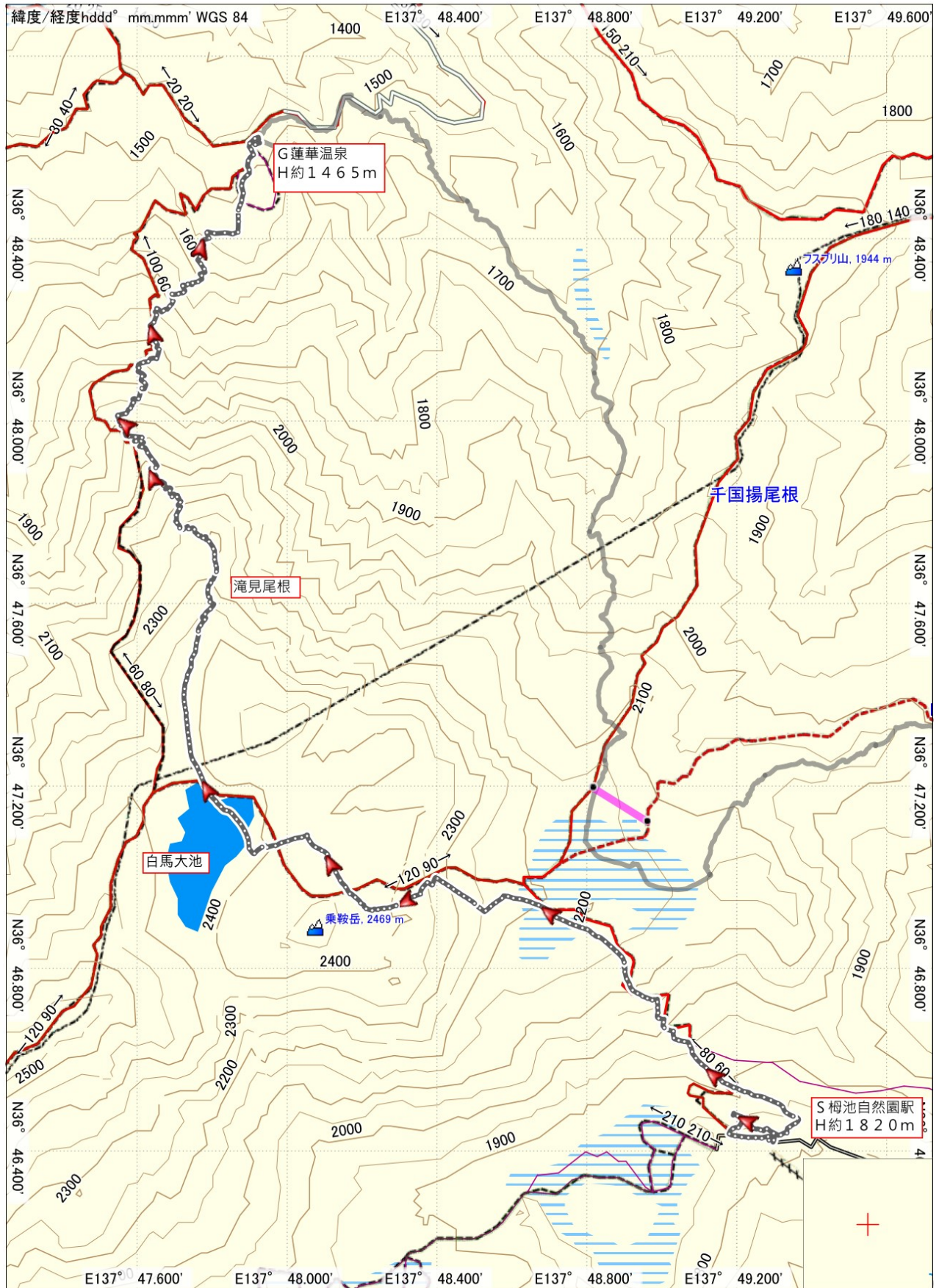
黒川沢



堰堤（左を潜って通過）

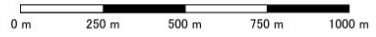


白馬乗鞍スキー場

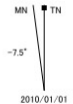


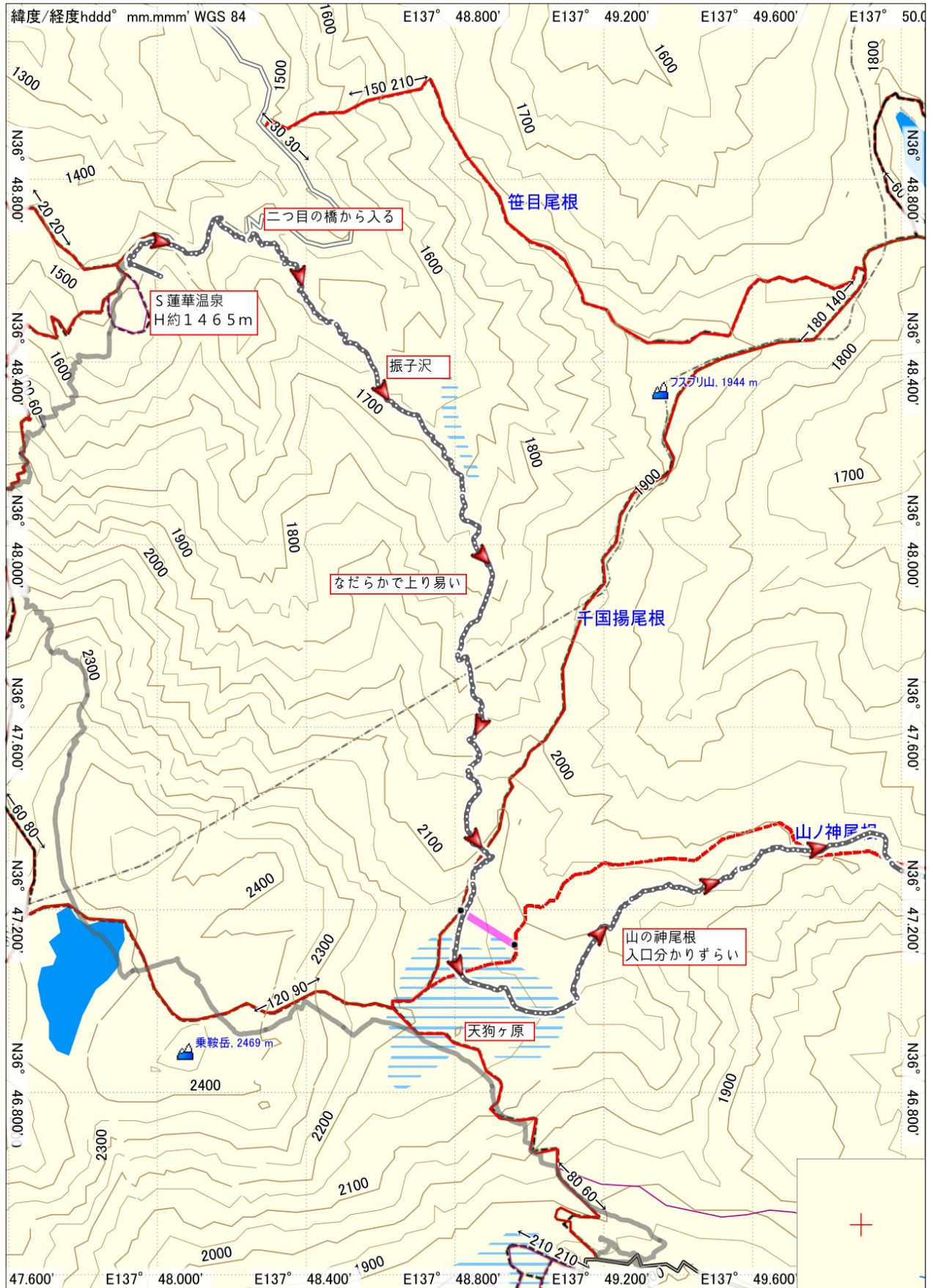
Japan Topo 10M Plus V3
 CamasMaple Co. Ltd 2014
 Garmin Corporation 1995-2014

2017/03/20 9:17:24



GARMIN

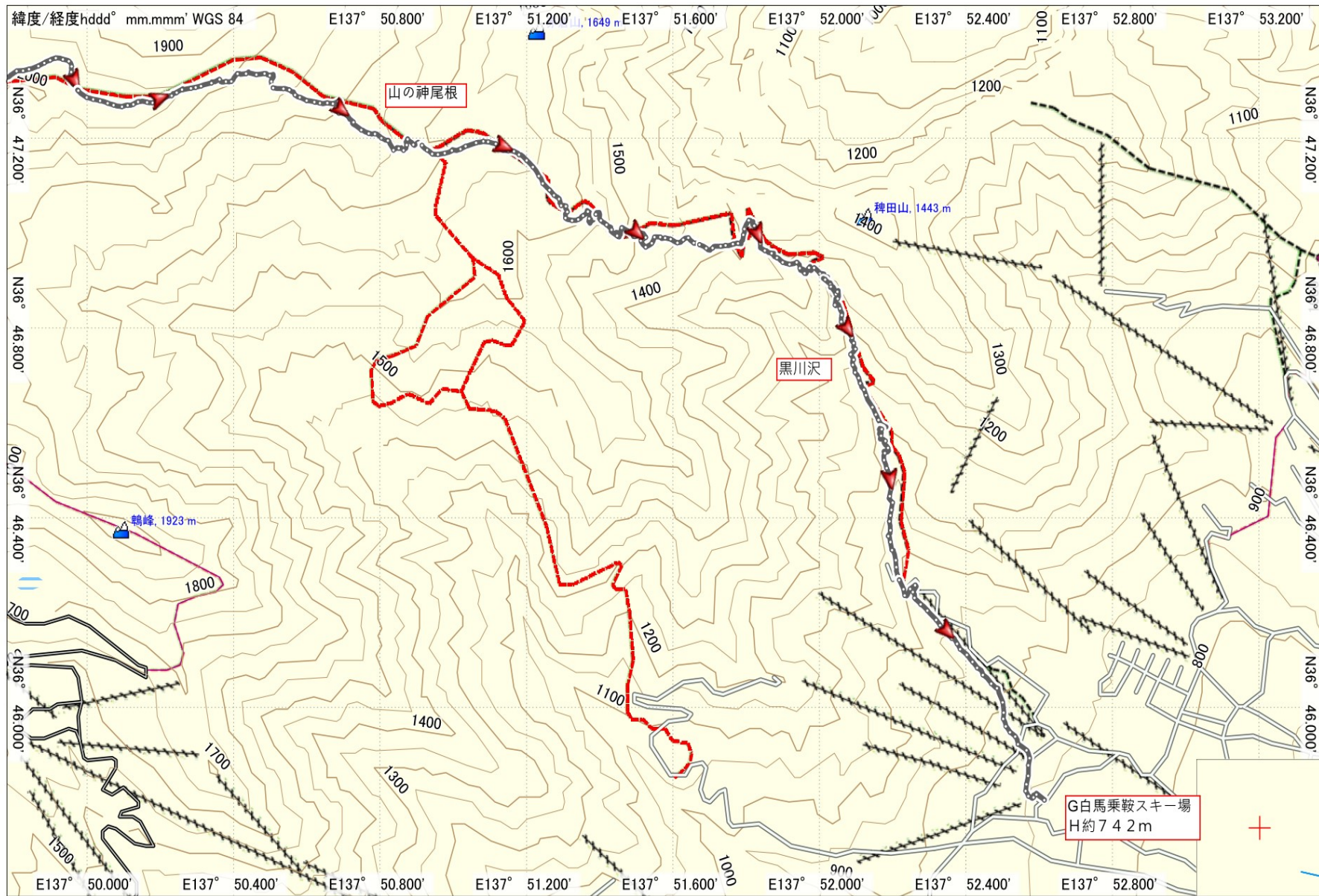




Japan Topo 10M Plus V3
 © Apple Inc., 2014
 © Garmin Corporation 1995-2014

2017/03/20 9:17:24

GARMIN



Japan Topo 10M Plus V3
 CanvasMaple Co., Ltd 2014
 Garmin Corporation 1985-2014

2017/03/20 9:17:24

GARMIN

